



学校だより よつわ

教育目標「進んで学び 生き生きと活動する子ども」

柏崎市立田尻小学校 No. 3 (R7. 6. 27)

田尻小ホームページ : <https://www.kenet.ed.jp/tajiri/tayori/>



夏休みに成長の種を植える

校長 ○○ ○○

あと3週間後には夏休みとなります。子どもにとっては、待ちに待った夏休み。家族も同じ気持ちだと嬉しいのですが、どうでしょう。

校長とすれば、交通事故や病気、けがに気を付けてというのは大前提ですが、大いに家族の一員としてのお手伝いを通して、将来、自立した生活を進めるための技や知恵を身に付けてほしいと思います。

例えば、洗濯を考えてみると、洗う、洗濯物を干す、たたむ、収納する、もっと言うと、洗濯機に入れる前の泥落としや裏返しの服を直して入れるとか、洗濯の基本を教えてほしいのです。部屋の整理整頓、掃除、

トイレ掃除、玄関掃除、風呂掃除、下の兄弟姉妹のお世話等、各家庭によってお手伝いの種類も内容も違って来るかと思います。1年生だからしなくて良いではなく、させてみてください。2年生になったら上手にできるかもしれません。その成長の種を植えてほしいと思います。祖父母の皆様にもご協力をお願いしたいです。



さて、世界の夏休みにも目を向けてみますと、アメリカ、ヨーロッパの国々では、驚くことに夏休みの期間が大変長いことが分かります。6月上旬から8・9月と、2～3ヶ月間も休みがあります。これほど長い休みにもかかわらず、登校日も部活もありません。そして、なんと宿題がほとんどないのです。宿題もない長い夏休みの間に、欧米の子どもたちは何をしているのでしょうか。まずヨーロッパでは、大人たちの夏休みも長いのが特徴的です。1ヶ月程度休むので、家族でキャンプに行ったり実家に戻ったりなど、子どもの面倒をみる家庭が多いと言われています。一方のアメリカでは、大人の夏休みは2週間程度。日本人からしたら十分に“長い夏休み”ですが、ヨーロッパと比較すると半分程度と短く、子どもと一緒にできること・面倒を見られる範囲も限られてしまっています。そのため、アメリカでは子どもを集めて遊ばせたり習い事(スポーツ・科学・ダンスなど)をさせたりする「サマーキャンプ」を多くの家庭が利用しているそうです。

近隣の中国や韓国に目を向けてみると、受験競争社会が問題視され、夏休み中も宿題や塾通いのため睡眠時間を削られる児童の問題がクローズアップされているようです。私も実際に韓国に年末出かけた際、元旦に関わらず言語習得のためのスクール(塾)に長蛇の列で並んでいる様子を見て驚いたことを思い出します。

国により、違いがありますが、子どもの成長を願わない親はいません。小さなことの積み重ねや、新しいことへのチャレンジをこの夏休みを利用してお願いしたいです。家族で大いに相談し、きまりを立て、子どもたちに成長の種となるべき物事を仕掛けていただきたいと思います。

子どもたち、元気で過ごしてほしいと願っています。おうちの方々、地域の皆様、よろしくお願ひします。

※学校だより7月号は発行しません。HP等で、よつわっ子の学校での様子をご覧ください。